

石川巖 いしかわ いわ 書誌研究家。明治十一年六月五日山形縣生乳、昭和一

十二年七月二十日没（八六—一九四七）。筆名乙子、巖、往來乙子、往來

子、石川、耽奇樓主人、耽奇生、耽奇老、耽奇老生、耽奇迂人、耽奇

郎、詩仙洞、詩仙洞主人等。明治二十六年折古齋館卒。四十年東京帝國

大學文科大學史料編纂所勤務、のち雜誌『書物往來』、『東京新誌』

編輯。

編著書『鶴一代男物語』（大正二年八月八日東江書院）、『浮世草紙』

（校訂）、『近代艶隱者』小蝶物語、大正五年十月二十一日、一『御伽

名應紙衣』海月小浜、浪花田鶴梅、十一月二十六日、二『男色大鑑』好色貞合

六年一月十六日、四『風流友二味線』大和こよみ、二月二十七日、五

『今涼氏空船』さんげ男、五月二十日浮世草紙刊行會）、『新從吾

所好』（編、第一輯『花街篇』大正七年十一月二十五日、第二輯『繪

風流行勢物語』九年八月二十二日、第四輯『二都洒落本』十一年七月

三十一日從吾所好社）、『新選』繪入『西鶴全集』（編、俳諧篇、第一卷、大正十一年

十月二十五日、俳諧篇、十一月十五日、讀樂篇、十四年十一月十五日

從吾所好社）、『何誰軒編』『俳諧書籍目録』（内題『何誰軒編集』

書籍目録』校訂、大正十二年九月二十日井上書店）、『書物往來叢書』

第一輯—演劇篇（野郎史・指下徒然草）、『（編、大正十四年五月二十

八日從吾所好社）、『軟派珍書往來』（昭和二年十月十八日文藝資料

研究會『變態文獻叢書』追加）等。